

知的障害特別支援学校 中学部での道徳的価値を育む授業づくり

「特別の教科 道徳」における授業内容設定の考え方と代弁的・翻訳的な（補助自我的）支援の在り方

日置 健児朗（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

今井 伸和（熊本大学大学院教育学研究科） 本吉 大介（熊本大学大学院教育学研究科） 高崎 文子（熊本大学大学院人文社会科学研究部）

Introduction | 多面的・多角的に“自分ごと”として考える

自立活動



主に「人間関係の形成」や「コミュニケーション」についての学習を通じ、道徳的価値や視点を育むための取組を積み重ねてきている。

既存の「道徳」の教科書や動画はあるが、知的障がいのある生徒が様々な知識をつなげて考えたり、比較したりすることは難しいと考える。

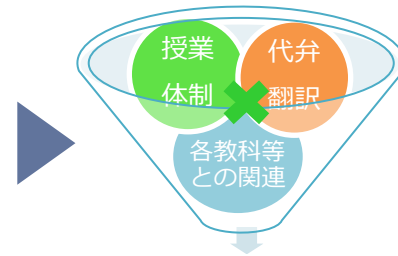


各教科等での経験を「道徳」と関連付ける

多面的・多角的に自分のこととして捉えやすくなるのではないかな。

教師が代弁的あるいは翻訳的な役割をする

気持ちや考えを伝える一助になり、道徳性を養うことに効果があるのではないかな。



道徳的価値

Plan | 学習時間、授業内容

Step 1（第1次 H29年度）**NEW** 道徳の授業をスタート



学習時間の特設

年間4時間を特設の授業とした。（前後期各2時間）

授業形態

中1～中3までの学部一斉授業とした。

活用教材

NHK for school内のデジタルコンテンツ（道徳）を活用した。「オンマイウェイ」etc

課題

- ▲内容や登場人物の背景が複雑で理解することが難しい。
- ▲視聴者の観点で気持ちを考えるため、道徳的価値を自分のこととして捉えることが難しい。

Step 2（第2次 H30年度）**NEW** 熊本大学教員との共同研究をスタート



学習時間の特設

時数を増やし、年間7時間を特設の授業とした。

授業形態

中1～中3までの学部一斉授業とした。

活用教材

小学校学習指導要領「特別の教科 道徳」の内容項目と、各教科等や行事と関連させた題材を検討、実践した。

課題

- ▲評価の観点について、共通してできるものを検討する必要がある。

Step 3（第3次 令和元年度）**NEW** グループ別学習をスタート 授業内容のブラッシュアップ



学習時間の特設

前年度の取組の結果を踏まえて、更に時数を年間35時間（*実質、特設の授業としては20時間）と設定した。

授業形態

一斉授業の形態は継続。内容に応じてグループ別授業（3グループ）を実施した。

活用教材

昨年度のテーマに加え、各教科等を関連させて新たな内容（運動会、労働・公共の精神など）に取り組んだ。

NEXT

実態（道徳）に応じたアセスメント

授業のブラッシュアップ

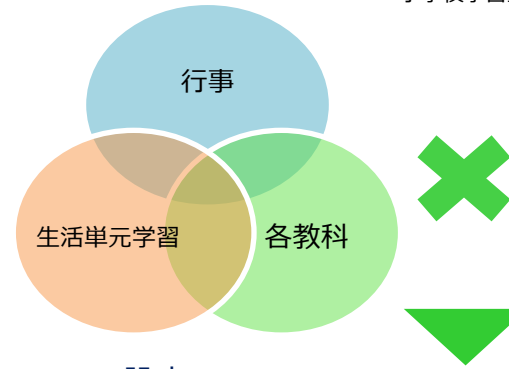
評価の在り方

生徒の発達段階に応じた道徳的価値観の形成へ



他教科等と道徳の項目とを関連させたテーマ設定と授業形態

*小学校学習指導要領「特別の教科 道徳」第2節 内容項目の指導 参照



テーマ設定

- ・体験的な学習内容からの選定
- ・記憶に新しい、各教科等での経験
- ・相手を意識したかわりが多い内容

一斉授業・グループ別授業

- ・共通の経験を通じた振り返り
- ・意見交換による互いの気持ちの共有など

A 主として自分自身に関すること
自己理解

B 主として人との関わりに関すること
他者相互理解

C 主として集団や社会との関わりに関すること
伝統・文化の尊重
公正・公平な態度

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
生命の尊さ
自然愛護

代弁的・翻訳的支援



これまで培ってきた自立活動におけるコミュニケーションの学習のノウハウと、**心理劇の手法**を応用し、生徒の内面を教師が**代弁**したり、**翻訳**的に気持ちや考えを言葉で書いてまとめたりする役割をする。

【代弁的支援】

実態に応じた個別支援

- ◆感情表出を誘うきっかけづくり
（気持ちを表す語彙、学部生徒の顔写真表 など）
- ◆自分自身を客観視できる問いかけ

【翻訳的支援】

- ◆文字の代筆
- ◆ミニホワイトボードを活用した意見の整理
- ◆気持ちや考えをリフレーミングしながら整理する など

授業の流れ

挨拶、学習内容（道徳の項目）の確認

アイスブレイクゲーム

テーマ発表（VTRや写真の視聴）

意見交換（代弁・翻訳的支援）

まとめ（発表、意見等の共有）

Reality | 生徒の実態

中学部1～3年生 18人が在籍
知的障がい ダウン症 自閉症など多様

幅広いコミュニケーションの実態

生かしていきたいところ

- ・言葉で心情を説明することができる。
- ・写真やイラストから選択して、気持ちを伝えることができる。
- ・表情やジェスチャーの動きなどで感情表出することができる。 など

支援が必要なところ

- ・相手の気持ちを推し量ることが難しい。
- ・気持ちを表現する語彙が少ない。
- ・内容を把握してイメージ化することが難しい。
- ・思ったことを衝動的に話してしまう。 など

双方向のコミュニケーションによる相互作用

互いを認め合える雰囲気づくりになっている

Case | 授業実践

事例Ⅰ 一斉授業/グループ別授業
「みんなのために”ってどんなこと？」
【項目C 勤労・公共の精神】



- 目的
- ・教師が掃除をしたり、友だちが整理整頓をしたりする様子から、その行動の理由や気持ちについて考える。
 - ・自分が進んで行った行動がみんなの役に立つことの嬉しさ、やりがいになることを感じるができる。

一斉授業

授業づくりのポイント

◆写真の活用

教師や生徒の実際の活動の様子を撮影したもの活用する。

◆気持ちカードの活用

友だちの発表に「いいね」「すごいね」の気持ちのカードを選択して、提示できるようにする。

代弁的・翻訳的支援

学年毎の話し合い活動

教師の支援

◆ ポイントを絞った投げかけをする。「だれの、なんのため」「どんな気持ち」
◆ 気持ちの語彙の提示する。 など

生徒の様子

「大変だけどみんなが喜んでくれるし、勉強しやすい。」との感想が聞かれた。

全体での発表

互いの役割や頑張っていることを共有し合う

グループ別授業



授業づくりのポイント

◆模擬体験

友だちの行動（例：ドアを閉める など）を実体験し、行動の理由や気持ちについて考えやすいようにする。

◆心情カードの活用

感じた気持ちを表現しやすいように、ポジティブ（ピンク）、ネガティブ（グレイ）のカードを選択して提示できるようにする。

代弁的・翻訳的支援

模擬体験（トイレのスリッパ並べ）

教師の支援

◆ 生徒の気持ちや考えをリフレーミングしながら整理する。

生徒の様子

模擬体験を通して、実感した気持ちを全員がポジティブカードで提示することができた。

各生徒の発表

自分でできることを考え、友達と共有し合えた

評価

友だちの行動への気付きを踏まえ、自分の行動（役割）が「だれの・なんのため」「どんな気持ちで」と改めて振り返って考えることができた。

共同研究者より

第1段階：自分の体を指し示すなど、実際に触れることを通しての**自己認知**。
第2段階：友達と握手するなどの関わりを通しての**他者認知**。
第3段階：「自分」が「みんな」の中の1人であることを**自覚できる**ようにする。
この1～3段階を自覚できるようにすることで、導入と展開、さらにはまとめが有機的に結び付いていた。

共同研究者より



障がいや言語能力の実態による思考の難しさ

ロールプレイを使ったイメージアップ

ミニホワイトボードを活用した言語化・ワーキングメモリの補助

教師の補助自我的かわり（問いかけや思考の補助）

代弁的・翻訳的な支援が道徳科も含めた教育そのものを支えている

◆生徒が持つ道徳的価値に気付き、対話（代弁・翻訳）することで客観視することができる。

◆自分でクリアしていく一つ一つのステップや成長の様子などを見とっていくことが評価へつながる。

子どもたちの思考の広がりや深まりを支援

事例Ⅱ 授業内容の比較・ブラッシュアップ
「すずかけ祭りにたくさんの人がかかるのはなんでだろう？」
【項目B 感謝】



H30年度

- 目的
- ・祭りがたくさんの人との触れ合い、交流の場になっていることを知る。
 - ・インタビューを通して、来場者の気持ちについて考える。

授業づくりのポイント

◆テーマソングの活用

本校オリジナルテーマソングの歌詞についてキーワードを提示し、ジェスチャーで表現したり、歌ったりしながら考える。

◆インタビューの活用

インタビューを通して得られた来場者の感想から気持ちに関するキーワードを選定し、注目できるようにする。

代弁的・翻訳的支援

学年毎の話し合い活動

教師の支援

◆ インタビュー時の写真や来場者の感想から、生徒の感じた気持ちなどについて整理する。

生徒の様子

インタビュー時を振り返って、気持ちや考えを話すことができた。

評価

来場者の気持ちを知ること、より自分たちとのつながりを感じ取ることができた。

全体での発表

写真の来場者の表情に注目し、「笑顔がたくさん」「楽しそう」など意見が多数

令和元年度



Brush up!

- 目的
- ・祭りを通して、家族や学校、地域社会の善意等に気付き、感謝する気持ちを具体的な言葉で表現することができる。
 - ・自分の生活等を支えてくれている人の思いや自分がどのように関わっていたり、支えられたりしているのかに気付くことができる。

授業づくりのポイント

◆ワークシートの活用

来場する人の気持ちを考えやすいようにカテゴライズして提示する。

◆インタビュー写真等の活用

インタビュー時の写真やアンケートを活用して振り返る。

代弁的・翻訳的支援

話し合い活動（祭り前の学習）

生徒の意見

【祭りにどんな気持ちで来てほしい？】『（商品）を買う気まんまんで来てほしい。じゃないと、作った意味がない。』との意見が聞かれた。

教師の支援

◆ 作業学習時の様子や製品作りへの思いをリフレーミングしながら整理する。

話し合い活動（祭り後の学習）

来場者の感想を通し、自分たちの頑張りが伝わっていたことを実感できた。

評価

想像した来場者の想いと、インタビューした内容とを比較したことで、自分たちの頑張りが伝わっていることを知り、自信につながった。



家族の気持ちに触れ、更に**感謝の気持ち**が芽生えた。

Result | 道徳の授業をとおして

授業体制

友だちと共通した経験を基に気持ちや考えを共有

互いの意見を参考にしながら考えを深めるようになった。

代弁・翻訳

生徒の実態に応じて感情表出における様々なパターンでのきっかけ作り

より細かな心情、考えを引き出せるようになった。

各教科等との関連

行事や生活単元学習等と関連

経験したことを基にした振り返りや気持ちの対峙など、自分のこととして捉えやすくなった。

Conclusion | 道徳的価値を育む授業づくり

「授業体制」「代弁・翻訳」「他教科等との関連」の3点を意識した授業づくりに取り組むことで、生徒は自分とのかかわりや他者理解などを通して道徳的価値を捉えるようになってきた。また、経験や関わりを通した内面の道徳性、人としての思いやりなど道徳科における見方・考え方の視点の育みへもつながった。